

第13期葛飾区社会教育委員の会議 第16回会議 会議録

● 開催日時 令和5年1月20日（金） 午後2時～4時

● 会 場 教育委員会室

● 出席者 計14人

社会教育委員（8人）

大島 英樹	野川 春夫	大畑 廣行	竹高 京子
工藤 宜	鈴木 弥生	風澤 明子	熊谷 晴弘

事務局職員（3人）

生涯学習課学び支援係長	佐藤 吉裕
生涯学習課学び支援係（社会教育主事）	与儀 睦美
生涯学習課学び支援係	矢作 孝寛

オブザーバー（3人）

生涯スポーツ課長	柿澤 幹夫
生涯スポーツ課事業係長	張替 武雄
地域教育課長	須藤 義和

次 第

1 議 事

- (1) 「記録と提言」の検討
- (2) 「記録と提言」の普及について
- (3) 今後の会議の進行について
- (4) その他

【配付資料】

- 第14回会議録（案）
- 「記録と提言」（案）〔資料1〕
- 「記録と提言」の送付先（案）〔資料2〕
- 第13期社会教育委員の会議スケジュール（案）〔資料4〕
- 国選定重要文化的景観葛飾柴又の文化的景観整備計画 概要版
- 国選定重要文化的景観葛飾柴又の文化的景観パンフレット
- 関連事業チラシ（かつしか区民大学講座「子どもの安全を考えるつどい」「絵本づくりは心の旅」「年金講座」「団体・サークル支援講座」「性と生き方の多様性」「大地震の前に」、令和5年度「かつしか教室」募集案内）

— 開会 —

○事務局 それでは定刻となりましたので、始めさせていただきます。本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。新しい年を迎えて最初の会議となります。本年もどうぞよろしくお願いたします。

本日欠席のご連絡を頂いている方はいらっしゃいません。本日は、資料にありますとおり、次第の中に「(4) その他」という議題をご用意していますが、議題の中に関連する内容がございますため、地域教育課長が3時15分ぐらいに同席する予定になっております。

また、事務局のことではございますが、諸般の事情がございまして、担当しておりました黒澤が郷土と天文の博物館に異動となりました。区役所職員の異動は例年3月から4月にかけてということになるわけですけれども、職員が欠員になるなど様々な事情がございまして、1月1日付で異動となりました。今年度の会もまだございますので、代わりに矢作が担当いたしますので、よろしくお願いいたします。

それから、本日傍聴希望の方がお1人いらっしゃいます。後ほどご入室いただきますので、よろしくお願いいたします。

資料のご説明をさせていただきます。お手元の資料を御覧ください。まず、本日第16回の次第がございます。それから、委員の皆様には第14回の会議録の(案)をお示しております。修正等がございましたら、2月3日、金曜日までにご連絡を頂ければと思います。

それから、右肩に資料1とございます「記録と提言(案)」になります。それから、資料2といたしまして、「『記録と提言』の送付先(案)」でございます。資料3につきましては、「会議のスケジュール(案)」となっております。3月の予定について記載をさせていただいております。後ほどご説明をさせていただきます。

それから、参考資料といたしまして、生涯学習課関連の講座等のチラシをご用意しております。御覧いただければと思います。それから最後に、クリップ留めでして、「国選定重要文化的景観葛飾柴又の文化的景観整備計画」及びパンフレットを配付させていただきました。生涯学習課のみならず葛飾区の重要プロジェクトになっております。ぜひご一読いただければと思います。

以上の資料につきまして、不足等はございませんでしょうか。

では、傍聴者の方、どうぞお入りください。

(傍聴者入室)

○事務局 それでは、この後の議事につきましては、進行を大島議長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

1 議 事

(1) 「記録と提言」の検討

○大島議長 皆さん、こんにちは。お正月も大分たちまして1月も下旬ということになりましたので、新年の気分というよりは、今度は年度末に向かって会のまとめにかかっているところです。今日は議題が4つということでたくさんありますので、早速ですけれども、次第に沿って順番に進めてまいりたいと思います。

まず初めに、(1)「記録と提言」の検討ですけれども、お手元の資料1の全体的な構成について、まず事務局のほうから説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、概略を説明させていただきます。こちらの資料1「記録と提言(案)」をご覧ください。

まず表紙がございまして、実際は、この表紙は色紙になります。次に目次があります。

折り込みの紙を入れた関係で予算が厳しくなりまして、余裕がない作りになっております。目次の裏に「はじめに」、そして、「事業の記録」が続きまして、委員の皆様の当初のご希望ですと、このカレンダーのほうが先ということだったのですけれども、冊子のつくり上、「コロナ禍での社会教育事業の記録」という全体のタイトルがまずあって、そして(1)「生涯学習課 事業の記録」、その後カレンダーと、そういうつくりにさせていただいています。

5つの部署のものが続きまして、その後「事業の記録」が地域教育課まで行きます。今、皆様のお手元にありますのは、少しページが違っていまして、実際には折り込みの部分にもページに入れますので、後半になるにつれてページがずれています。目次のページは、実際と同じです。本文のページは、印刷業者に入れてもらいます。

お手元の冊子の12ページから「葛飾区の取組について—評価と提言—」ということで、皆様方の提言の部分を生涯学習課から5つの部署を続けて、ページを送らないで詰めて並べております。

今の状態は、このような形になっています。

今、ページ送りが違っていることに気がつきました。17ページの「区立図書館の取組について」はタイトルが一番下になってしまっているのです、これは次のページに送ります。また、21ページの下「今後の展望」のタイトルも、次のページに送ります。現在、削除される箇所がまだ残っていますので、24ページまでになっていますけれども、削除するところを省きますと、1ページ短くなり、23ページになります。

予定では、この後に中扉の色紙を入れまして、資料編に行きたいと思います。皆様の

名簿と、テーマと、協議の経過を書きます。今、裏表紙にあります奥付は、裏表紙の裏側に入れようと考えております。裏表紙は何も印刷されない予定です。

予算の関係で、詰めたつくりになりましたが、その上部数もかなり減らすことになりました。500部ぐらいになる予定です。

こちらを、今日確認していただきまして、修正したものを最終とさせていただきます。来週の早々に印刷業者に原稿を出すというスケジュールを考えております。

皆様方に今までいろいろ修正していただきまして、また、その後に議長からも修正を頂いていますので、メールで送らせていただいたものから、マーカーをつけた部分など、さらに修正されたところがあります。

それから、カレンダーの折り込みの部分も、以前からさらに見やすくなっているかなという部分もあります。まだ途中のものもありまして、例えば9ページと10ページ間の「区立図書館 主な事業の記録」の、一番下の「ティーンズ向けイラスト講座」の部分は少し分かりにくいことに気がつきまして、現場のほうにもう一度作り直すよう依頼しています。

例えば令和3年の4・5・6月あたりの「『推し本』（おススメ本のポップ募集）企画・開催準備」というのが突然出てきて、「ティーンズ向けイラスト講座」とこの関係がよく分かりませんし、これは企画・開催準備はしているけど、実際どこでやったのかが何も書いていません。また、「謎解きイベント」もよく分からないということで、これらについて電話で聞きましたら、「ティーンズ向けイラスト講座」ができないので、その代わりとして展示事業などを違う形でやったものだという事なので、その辺りが分かるように書いてもらうとか、幾つかこれから修正の部分もございませけれども、今の状態で皆様に御覧いただいて、さらに修正のところがありましたら教えていただきたいと思います。

○大島議長 ありがとうございます。全体の構成と、それから、それぞれの皆様にもお書きいただいた原稿と、2つの視点があろうかと思うので、まず初め、先ほどカレンダーと記録の順番をひっくり返すということもありましたので、全体の構成、組立のところでは何かお気づきの点があったら、ご指摘いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○竹高委員 逆になったほうが見やすくなったような気がします。すっきりしていて、説明があって、その後にカレンダーを見るので、ここがこうなのだなと見る方も見やすいのではないかと思います。

○大島議長 変えた意味が生まれた、というご指摘ですね。ほかのところはよろしいでしょうか。

これから、中身のほうにも入っていきたいと思うのですが、全部読み上げるわけにはいかないと思うので、前のほうから、私がここはいかがでしょうかと前に進んでいきますので、途中でご指摘のあるところ、お声を上げていただければと思います。そのような形でよろしいでしょうか。

では、表紙からいきたいと思いますけれども、表紙はよろしいでしょうか。多くの目で見てると何か気づくこともあろうと思います。

では、目次に参りましょう。目次もよろしいでしょうか。

では1ページ目、「はじめに」というところ、いかがでしょうか。

○事務局 すみません、1か所、後からどなたかからご指摘があったのですが、2つ目のパラグラフの「大島議長の」というところの2行目の「令和2年5月以降は」となっているのですが、ここは「3月」とか「4月」なのではないかというご指摘を頂いています。どういたしましょうか。実際には、3月の中旬から事業は影響を受けております。

○工藤委員 そのほうがいいのではないですか。「3月」と書いたほうが分かりやすいかなと思います。

○竹高委員 3月に小中一斉休校になって、その後、緊急事態宣言に入ったので、3月から影響は出ていたのではないかなと思います。

○野川副議長 3月にはこの会議がなく、実際には5月から始まり、そこのところから影響を受けたので、こう書いただけなのです。どちらでも結構です。

○事務局 そういうことですね。

○野川副議長 でも、これを「あれ？」と思われるのでしたら、「3月」で問題ございません。

○竹高委員 多分多くの方は、3月ぐらいからだったな、と考えると思うので。「この会議は」という一言を入れると、5月からというのが見えるのかなと思うのですが、どちらがいいのか。

○工藤委員 5月からというと、そこに注釈がつくのだったら分かります。

○野川副議長 わざわざ注釈を入れるほどのことではないですね。

○竹高委員 だったら、「3月から」のほうがいいですかね。

○野川副議長 結構だと思います。

○大島議長 ありがとうございます。そのような形で順番に見てまいりましょうかね。「はじめに」のところはよろしいでしょうかね。

そうしたら、1の「コロナ禍での社会教育事業の記録」で、(1)の生涯学習課の部分ですね。説明の部分とカレンダーと両方御覧いただければと思います。

○野川副議長 議長、よろしいですか。最初の「コロナ禍での事業の経過」で、「会場設備や機材（ドアノブ）」、その次のところはスペースが空いているので、これを詰めると思います。

○事務局 了解です。

○大島議長 ありがとうございます。

○竹高委員 3ページの一番上の「オンラインの活用」のところなのですが、「HIPHOP」の後の「、」は要らないかなと思うのですが、どうでしょうか。

○大島議長 「HIPHOP」の鍵括弧の次に点、これは要らないのではないかと。

○事務局 これは要らないと思います。

○事務局 ありがとうございます。

その下の「葛飾花しょうぶと菖蒲園の歴史」となっていて、この花しょうぶの「しょうぶ」は平仮名でいいのですか。

○事務局 タイトルとしては、このとおりです。

○野川副議長 分かりました。

○事務局 ②の改行がおかしくなっています。すみません。前の原稿のときに均等割り付けしてしまったところが残ってしまっています。

○大島議長 大勢の目で見るといろいろ気づきがあると思うので。カレンダーは事務局に集中してお任せしてよろしいですかね。それでも、お気づきの点があれば、もちろん出していただければと思います。

そうしたら、(2)の博物館のほうに進んでいただければと思います。

○事務局 5ページの「区立小学校など」というところは、もともと「小中学校など」となっていたのがどうなのかというご指摘が委員さんからありまして、博物館長に確認したところ、職員出前講座は中学校にはやっていないということだったので、区立を入れて「区立小学校など」にしました。

○大島議長 ありがとうございます。

では、(3)の生涯スポーツ課の記録について、お願いいたします。

○竹高委員 6ページの「第5波終了以降」というところは、「キャプテン翼CUPかつか」の「か」は上ではなくて下のほうがいいのですか。括弧だけが下に行ってしまうようになってしまうので。

○生涯スポーツ課長 1行目の「ウィズコロナに切り替わった関係で、」の点を取ってしまうと一文字上に行くので、それでうまくいくのではないですかね。

○大島議長 よろしいでしょうか。

○事務局 「オリ・パラ折り鶴プロジェクト」の固有名詞は合っていますか。それとも

「オリパラ」でしょうか。プロジェクトの名称は点が入り、事業の一覧表のほうは「オリパラ」なので、どちらでしょうか。確認して教えていただけますか。

○生涯スポーツ課事業係長 はい。

○大島議長 では、(4)の区立図書館のほうに進んでいただければと思います。

○竹高委員 ここは、行の文末ががたがたした感じです。

○事務局 Wordでは時々こうなってしまいます。

○竹高委員 すごくばらばらに見えるのですけど。

○大島議長 一太郎とは考え方が違うからですね。文字の並びをそろえるかどうか、ということだと思う。これはソフトの都合で仕方ないのかなと思います。

○竹高委員 印刷屋さんに頑張ってもらったというわけにもいきませんか。そのほうがいいような気が。切りがないですよ、これ。経過のところは全部がそろっていない感じがするので。

○大島議長 それは、ほかのページもそうですね。

○竹高委員 ここがとても極端に目立っていたので。でも、ほかのところもまあまあばらばらな感じが。

○大島議長 そこは可能であれば事務局のほうから印刷屋さんに尋ねてみてください。

いかがでしょうかね、図書館のところ。よろしいでしょうか。

そうしたら、(5)の地域教育課のほうも御覧いただければと思います。

○生涯スポーツ課長 「各事業で形態が異なるが」というところの2行目にまたがって、「まん延防止処置」と書いてあるのですけれども、中段の実施や延期のところでは「まん延防止等重点措置」なのです。これは何か違うことを言っているのですか。2行目は「処置」で、中段の「実施や中止・延期の基準や基本的な考え方」のところでは「等重点措置」。多分「まん延防止等重点措置」が正しい言い方だと思うのです。

○事務局 「等重点措置」と、ちゃんと書いたほうがいいですよ。

○生涯スポーツ課長 多分こっちが正しい言い方だと思うのですが、違うことを指しているのだったら、これはこれでしょうがないのかなと思うのですが。同じものだったら同じ表現にしてしまったほうがいいのかという気がします。

○生涯スポーツ課事業係長 4行目は、「特別措置」になっている。

○竹高委員 「重点」ではなく「特別」になっていますね。3つともばらばらです。

○大島議長 よろしいでしょうか。ここまでの「記録」を踏まえて、委員の皆様にお書きいただいて、それから様式を整えてきた「評価と提言」のほうに入りますけれども、こちら今見ていただいた「記録」で使っていた文言との整合性というのは取りたいとも思いますので、その視点からも御覧いただければと思います。

同じように（１）から（５）まで進んでいきますので、ある程度切りながら、（１）の「生涯学習課の取組について」、この辺を御覧いただければと思います。

よろしければ、（２）の博物館に進んでいただければと思います。

よろしいでしょうか。

では、（３）の生涯スポーツ課に進んでいただければと思います。

○事務局 15 ページの下から４行目の「事業や組織」のところなのですが、最初原稿は「組織」だけだったのですね。「組織を継続させる」だったのですが、別の委員さんから「事業」ではないかというご意見があつて、「事業を継続させる」に一旦なりまして、また別の委員さんで「事業や組織」かなという方がいらっしゃって、皆さん全員の意見を聞いたわけではないのですけれども、今「事業や組織」にしてあるところです。この辺は、書かれた方の思いもあると思うので、いかがでしょうか。

○大島議長 全体として通るようになったときに、すんなりと理解ができればそれでよろしいのではないのでしょうかね。いかがですか、よろしいでしょうか。

○事務局 それから、16 ページの真ん中から少し上のところに、「人と人がつながりをもちながら」の「もつ」というのは漢字なのか平仮名なのか、あと「つながり」は漢字なのか平仮名なのか。これは好みの問題だと思いますので、一応この冊子として統一すればいいかと思うのですが。議長の原稿は、「もつ」とか、その下の「よい」とかが平仮名になっていますので、今は議長に合わせて平仮名になっています。決めていただければ統一します。

○大島議長 いかがでしょうか。合わせますということなのですが、よろしいですか。漢字で書く必然性が強いところであれば戻したらと思いますけど、基本仮名で書ける部分は仮名で書いたら読みやすいのかなと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、（４）区立図書館に進んでいただければと思います。

○副議長 （４）のタイトルが一番下で何も無いというのが寂しいので、これを18 ページの一番上に移して、空いているスペースにちょっとしたイラストを入れたらいかがですか。

○事務局 ここはそのようにいたしますが、すみません、イラストは入らないです。

○副議長 ちょうどこのこと、その次の21 ページの「今後の展望」のところ、少し先なのですけれども、これも一番下に来ているので少し寂しいかなと。

○大島議長 見出し行だけ一番下では、あまり読みやすすくないと思うので。

○事務局 そこは、ちゃんと繰り上げいと思います。併せて、会議の様子の写真というところが21 ページにありますが、これまで会議の様子を何回か写真を撮らせていただいているのですけど、思わしいものが今のところ見つからない状況がございますので、

本日この場で写真を撮らせていただいて、幾つかピックアップして、ここに1枚ですが、載せさせていただくということによろしいでしょうか。

○大島議長 では、そのまま進めてまいりましょうか。(5)地域教育課の取組について、こちらに進んでいただければと思います。いかがでしょうか。

○野川副議長 21ページの10行目のところで「補佐(補完?)」になっているのですが、どちらがいいのでしょうかね。

○竹高委員 これは「サポート」では駄目なのですか。「補佐」では、すごく堅いかなと思うのですけど。

○野川副議長 いいですね。

○大島議長 ありがとうございます。そうすると、連動して23ページのところも同じく「サポート」で。

それでは、最後の大きな3「今後の展望」も御覧いただければと思います。特に後段のところは、前の「評価と提言」で頂いた皆さんの決定的な部分というのを再掲させていただいているところなので、同じ言葉遣いになっているか、大分事務局に丁寧に対応いただいていると思いますけれど、念を押して見ていただければと思います。

○事務局 細かいのですが、23ページの真ん中から少し上の「スポーツ庁の」というところで、「ニーズ」というときの伸ばす棒が頭に来ても大丈夫でしょうか。それを禁則とする場合もあります。それは気にしないで頭に持ってきてしまってもいいのか、「ニ」から頭に持っていくように送りましょうか。

○野川副議長 そのほうが読みやすいですね。

○事務局 分かりました。

○野川副議長 同じところなのですが、3行目の「そのために葛飾区教育委員会においても」と書いてあって、「そのためには葛飾区教育委員会においても」ということで、「に」と葛飾の間に「は」を入れたほうが分かりやすいかなと思うのですけど。

「そのためには」必要がある。そうしないと、そのために必要があるということで、やらなくてはいけなくなるので。という感じがするのですけれども、いかがでしょうか。

○大島議長 「は」を入れますか。どうですか。「は」の後ろは、僕は「、」が多くなってしまうので「、」は入れなくても。「は」だけを入れる。

○野川副議長 句読点を入れても全然私は文句ありません。

○大島議長 いかがいたしましょうか。「は、」で、はい、それでいきます。そうすると、その引用元が17ページになりますので、17ページの(4)の前のところ、ここと連動しますから、「そのためには、」と入れて。

いかがでしょうか。そうしたら、資料のところもお目通しいただければと思います。

○**風澤委員** すみません、元に戻ってしまうかもしれないのですけれども、いいですか。

○**大島議長** どうぞ。

○**風澤委員** 23ページの下から3行目の「追及」という文字なのですが、今調べると、この「つきゅう」には3種類があるのですね「きゅう」が。「求める」と、研究の「究」と、それから、この「及」は逃げているものをということなので。ですから、「求める」のほうがいいですかね。

○**大島議長** ありがとうございます。

○**野川副議長** 見逃してしまうところでしたよ。

○**大島議長** そのすぐ下、僕は「いく」と書くところを「ゆく」になっているので、これも気持ち悪い方もあろうかと思うのですが。

○**竹高委員** 「いく」ですね。

○**大島議長** 立て続けにあります。「越えてゆく」と「変化してゆく」。ありがとうございます。

では、資料のほうもお目通しいただければと思います。先ほど事務局から、最後の奥付の部分を表紙のめくった中にとの説明がありました。

○**事務局** 裏表紙の裏です。

○**大島議長** それはいいのですか。

○**事務局** 資料編は両面1枚、2ページで終わってしまうのですね。もう1枚を足す予算がなく、1枚節約するために、奥付をここにしようかと考えています。

○**大島議長** みんなでお小遣いをためて、何とかなれば…。そうですか、分かりました。そこはお任せということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

少し無茶な進行で、頭からお尻までお目通しいただきましたけれども、改めてお気づきのところがあれば、どこからでも構いませんので、いかがでしょうか。

○**大畑委員** つまらないことなのですが。名簿の中で、私のほうが、「元」ということでなっているのですが、直近の場合は「前」とつけますね。「元」というと、その前という感じがしますね。

○**事務局** 大畑委員の職のところですね。「元」でなく「前」ですね。

○**大畑委員** 前にしてもらえればと思います。

○**事務局** 失礼しました。「前」に修正いたします。

○**大島議長** ありがとうございます。

○**事務局** すごく戻ってしまうのですが、生涯スポーツ課のカレンダーの中に、「動画作成・配信」の矢印があるのですが、これはコロナ禍だからということもあって始めたということでしたら、グレーにしますかね。

○生涯スポーツ課事業係長 はい。

○鈴木委員 あと、ちょっと気になったのが、最後の1行の「どのように生まれたのかを示す、証人となって」の点は、ないほうがいいのかと思いました。「示す証人となってくれることを」と、つなげていくので。

○大島議長 ありがとうございます。先ほども言ったように、点が多いですね。取りたいと思います。

いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

○生涯学習課長 作っていて申し訳ないのですが、2ページの一番下に、かつしか区民大学の表があるのですね。区民大学の企画数だとか、実施数とか、参加人数。これは参加人数のところに「人」と書いてあるではないですか。だけど、ページをめくってもらって、博物館のところにも入館者数だとかプラネタリウムの同じような表があるのですが、「人」がないのですよ。人がなくていいのかなと。

○事務局 取ってしまっていていいですか。

○生涯スポーツ課長 この表は、プラネタリウムのほうは全部人ですよ、単位が。の区民大学のほうは講座数と参加人数だから、違う。

○生涯学習課長 そうしたら、講座数の前に「回」とかを入れたほうがいいのか。入れなければ、それで分かるのかな、と思って。

○竹高委員 「参加人数と書いてあるので、取ってしまっていていいと思います。

○生涯学習課長 取ったほうがすっきりするかなと思いました。すみません、作っていて申し訳ないです。

○事務局 「参加人数」と「事業参加者数」というのも違ってきます。

○生涯学習課長 合わせるのだったら「参加者数」ですか。

○生涯スポーツ課長 「参加者数」でいいのではないですか。

○大島議長 ありがとうございます。通して見るというのはすごいですね。大勢の目でご確認いただいて、いろいろな確認ができたと思いますので。先ほども事務局から説明があつて、これが最後になるということですね、修正は。

○事務局 そうなのです。でも細かく見ていただいて、ありがとうございます。

○大島議長 ありがとうございます。暮れ近くからですね、一気に皆様にご負担を増やしながら、全体にまとまることができたかと思しますので、本当にありがとうございました。では、これを入稿の原稿とさせていただきますと思います。ありがとうございます。

(2) 「記録と提言」の検討について

○大島議長 では、議事の2に進みたいと思います。「『記録と提言』の普及について」、こちらを事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 資料2のほうを御覧いただきたいと思います。「記録と提言」の冊子の送付先の(案)でございます。前回よりも部数が減るのですが、必要などころにはきちんと配布していきたいと考えております。

大きく減らしたいと考えているところが、小学校PTA・中学校PTAについてです。小中のPTA連合会のほうには5部ずつ送ろうと思っっているのですが、各単位PTAについては、これまで1冊ずつお送りしていたのですが、配布をせずに、通知文だけ配布しまして、ホームページに掲載いたしますので、ホームページのURLを表示しようかと考えております。ここで74部これまでよりも配布部数を減らせるということになります。ざっと御覧いただきまして、配布先につきましていかげでしょうか。

○大島議長 ありがとうございます。特別区のところも、社会教育担当課というところは、2部ずつ送っていたところを1部、そういうように節約するところが幾つかあるということでしょうかね。

○工藤委員 社会教育委員のところ、8人で、掛ける3冊だから24ではないのですか。32なのですか。

○事務局 計算が間違っていますよね。すみません、これは24です。申し訳ありません。この分の8冊、予備が増えることになると思います。

○竹高委員 これは100単位ずつなのですか、印刷は。

○事務局 大体、そのようです。

○生涯スポーツ課事業係長 区立図書館は閲覧用ですか。

○事務局 はい。

○生涯スポーツ課事業係長 地区センターとか、この辺は閲覧用と書いてありますが。

○事務局 はい、閲覧用です。図書館のところにも書いておきます。

○大島議長 では、よろしいでしょうか、ご確認。この普及についてということなのですけれども、今できたものをお送りする、お渡しするというのと併せて、前回、報告会という形で3月にしたいということをご提案して、そういう日程でお話を進めていただいていたところなのですが、この件について、事務局のほうから説明を頂ければと思います。

○生涯学習課長 では、私のほうから説明させていただきます。報告会は非常に大切なことだと思っていまして、実施できればと考えているところです。ただ、実は、今、皆

さんに「記録と提言」をまとめていただいた中身については、当然教育委員会の教育委員さんだとか、葛飾区議会の議員の方々であるだとか、そういうところにご説明をして、それから区民の方々にお知らせするような段取りを考えているのですね、区としては。

その中で、当然教育委員会だとか区議会というのは決まったときに開催されまして、区議会は年に4回で、実際これから提言をまとめて区議会のほうにご報告するのが3月の半ばになってしまうのです。区民の代表である区議会のほうにまずご説明をして、その後に区民の方々にご説明するという流れになっております。

ということで、3月の中旬に区民の方々に報告会をやるというのは、かなり厳しいかなと考えておりました、やるのであれば3月の半ば以降ということで検討させていただきました。報告会となると、当然、教育長、議長、委員さんも参加していただいでご説明するということで進めていたのですが、なかなか3月半ば以降の日程が、今この段になって取れる状況にないということが判明いたしました。

苦肉の策ではないですけれども、大島議長さんにご相談させてもらって、全体の報告会というのは、提言ができてから冊子も配るし、インターネットだとか、当然区の広報『かつしか』でもお知らせするという中で知っていただいで、もしご意見があればというところで。今回はまず7日に、内部で、区の関係所管の課長であるとか、関係者を呼んで、そこで報告会をやらせていただければ、というところで、まず「案」ということでお示しをさせていただきたい、というのが今の事情でございます。

○大島議長 ありがとうございます。非常に残念なところだったのですが、予定を変えると、皆様のご予定をまたひっかき回すことにもなりかねませんし、年度末というのは役所のほうも動きが取れなかりょうということで、この会議としての中では、この3月の、前回に確認いただいた日付を尊重することにならうかと思うのです。確認を頂いた後、広く聞いていただけたらなという思いはあったところですが、皆様、ご了承いただけますでしょうか。いろいろな思いはありますけれども。

○竹高委員 そもそも「記録と提言」といっても、記録の部分の比重が多いものなので、また、今の状況で完全にコロナが収まっているというわけでもないので、これは、あえてそういう報告会をしない体質のものではないかなと思います。なので、やはりこれをまとめたことを区の教育委員会の方に受け取っていただくとところで、私たち社会教育委員としての務めは果たせるのではないかなと思います。

○大島議長 ありがとうございます。暮れのときに教育委員さんと、それから担当の課長さんたちにもおいでいただいで、うまくキャッチボールの投げるところができたのかなと思いますし、そういう意味では、3月のメンバーというのは課長さんに加えて、どなたか各課からおいでいただけるといことですかね。

○生涯学習課長 そうですね、関係するところで、当然所管の課長は出させていただきますし、あと出られる幹部の職員も出ていただこうかなと思っています。

○大島議長 そうした方々に僕たちの思いというか、お伝えできて、それに対して何か少しでもリアクションを頂けたらと思いますね。竹高委員が言ってくれたように、今回というのは、そのやり取りを見届けてくれる人がさらにあればなという思いで。

でも会議であれば、傍聴という仕組みは3月も同じようにできるのですよね。

○生涯学習課長 そうですね、考えております。

○大島議長 そうすると、この記録の性格ということと、メッセージを渡したい相手、特に大事な相手は誰なのかというところでご了解が頂けるのかなとも思いますが、いかがでしょうか。

もう少し当日の形は詰めさせていただこうと思いますけど、一方的な説明会というよりは、意見交換ができるような、やり取りができるような時間に少しでもできたらなと思いますので、そのような形で3月の準備をさせていただければと思います。よろしいでしょうか。

○事務局 ありがとうございます。そうしますと進め方は、委員の皆様方からも、ここに込めた思いだとかを話していただくということでよろしいでしょうか。全体を議長・副議長から説明していただいて、それから委員の皆さんにも発言していただくということで、そんな進行の仕方よろしいでしょうか。

(3) 今後の会議の進行について

○大島議長 ありがとうございます。では、3月7日の時間と場所というのは。

○事務局 資料3を御覧いただければと思いますが、赤字で、今お話しいただいている報告会の日にと会場について明記をさせていただいています。3月7日火曜日、14時から、会場は教育委員会室ではなくウィメンズパルを予定しております。また改めて御案内はさせていただきます。併せて、2月に予定していた会についてはなくなりまして、最終が3月7日という形になりますので、ご予約をよろしく願いいたします。

○大島議長 申し訳ありません、先走りました。では、今(3)についてもご説明いただいたということでよろしいでしょうか。

○事務局 よろしく願いいたします。

(4) その他

○大島議長 ありがとうございます。それでは最後の議題、「(4) その他」ということですが、委員の皆様からご報告や何か協議事項があれば、いかがでしょうか。

前回、教育委員との懇談会の中で大畑委員さんからご発言があった、小学校PTA連合会からの手紙ということですが、こちらについては事務局のほうからも確認を頂くということでしたので、その後の経過についてご説明いただければと思います。

○事務局 小学校PTA連合会と会合でお会いする機会がございまして、こういう話が出ているのだけれども何か提供できる資料はありますか、とお尋ねをしたところ、特にお渡しできる資料はないです、ということでした。

小P連の中で当然議論されていることだとは思いますが、資料が配られたかどうかというところについては定かではございませんが、提供できる資料としては特にご用意できるものはないです、というお答えを頂いていますので、前回の宿題とさせていただいている資料提供というのは、今のところ手元には特にないという状況です。

○大島議長 ありがとうございます。

○大畑委員 議事録云々というのではなくても、例えば会議を何回やったかとか、そういう記録もないのですかね、その検討についての。

○事務局 小P連の会合自体が、回数がかなり少なくなっているということは伺っているので、何回にわたってお話をしたかとか、どんな経緯だったかということについては、もう一度お問合せさせていただくことはできるかなと思います。

○大畑委員 先日一部の方に見てもらったのですが、私のほうに来た手紙を、皆さんに配っていただいて、確認してもらいたいと思うのですが、結構いろいろな行事をやめちゃうという指示が出ているのです。バレーボール大会の中止だとか、そういったものに関しても継続審議であったことなのだろうとは思っていますね。

あえて先日問題にさせていただいたのは、PTAの入会届に関してなのですが、自分もPTAをやっていたときに、こういう問題はあるにはあったのです。ただ、あまり表面化しないでうやむやにってしまったというのは現状であるのですが。「入会届」をもって白黒つけることがいいのかどうかというのは非常に難しいことだな、と思います。事務局としてこれを提案するからには、それなりに理事会等で話し合いを詰められたのかなと思っていたので、その資料があればと思ったのですが。

地域の行事をやる上でPTAは非常に大きな戦力なのですね。その大きな戦力が例えば解体まで行かないにしても、かなり戦力が分散してしまっているということになると、地域でいろいろな行事をやるについては、非常に人を集めるという部分において大変な

ことになるかなと。

それから、子どもたちを面倒見ていくという面でも、同じような情報を共有できる人が偏ってしまうのも、地域の中でばらつくのもおかしいことだし、みんなで一緒に見られれば一番いいことなので、もしこのPTAに関して、どういう形になるか分かりませんが、最悪人数的にばらつきが出たときに、どういうふうにフォローしていくつもりでいるのか、疑問です。

PTAの運営をどういうふうにやっていくかというのは、単に学校PTAだけの問題ではなくて、地域の活動の面でも大きな問題が出ると思いますので、これは検討していただきながら、うまく指導してもらいたいというのが基本にあるのです。

今、皆さんに配られた資料なのですが、これはポンポンポンと大きく4つ書かれているのですが、この4つの決定事項のまとめを見ても、多分理事会を2回か3回やっているのかなという感じで受け止めたのですが、そういうふうに、こんなに簡単に決めてしまっているのかなと、非常に不安に思いました。自分がPTAをやっているわけではないので、直接言うことができないのですが。

○大島議長 先ほど冒頭に申し上げましたとおり、地域教育課長にこれから同席をしていただけるということですので、今の大畑委員のご意見というか、ご質問も含めてですが、地域教育課長のほうからご説明があればと思います。

○地域教育課長 地域教育課長の須藤でございます。先月に引き続きまして、よろしくお願いたします。大畑委員に、この前ご意見を頂きまして、その後数回お話しさせていただいたところでございます。大畑委員のご意見としまして、前からおっしゃっていらっしゃる、「小学校のPTA連合会の方針」に書いてございますが、「令和5年度からPTAの入会届、またはそれに準ずるものを提出させることを推奨する」ということを決めたと。それについて、方針を急に変更するのはいかなものかという、そういったご意見の中身なのかなということを受け止めております。

小学校のPTA連合会が方針をこのように変えた、そのきっかけというのが、この前も私の説明で触れさせていただいたのですが、平成26年に熊本のPTA裁判というのがございまして、平成29年にPTAと当事者の方が和解しておりますが、その和解の内容が2つございまして、1つが、PTAが入会・退会が自由な任意団体であることを将来にわたって保護者に十分周知することと、保護者がそうと知らないまま入会させられたり退会を不当に妨げられないようPTA側が努めると、そういった和解をされています。

この裁判の結果につきまして、区の教育委員会といたしましても、そうした和解内容等の裁判の概要をPTAのほうにはお伝えいたしておりました。現在の連合会会長も、

前の会長からの引継事項として、この入会届についてどうするかといったところは引き継がれていたというところでございまして、その中で、この令和5年度の新生から実施することに、PTAの連合会で決めたということです。

その決定の経過について、理事会では2回審議をしているそうでございます。そのほかに、下打合せといったものも含むと何回やっていたか、そこまではないのですが、私と会長とのやり取りの中では、2回理事会をやって審議しているというお話を聞いております。

令和5年度の新生から実施することとした理由としましては、今までのように意思確認をしないままPTAの会員とすると、強制入会と受け止められて、PTAの役員が訴えられることも考えられるのではないかと、役員校・理事校ともその辺りを確認した上で、入会届を意思確認したほうがいいのではないかという判断に至った。そこが理事会での審議した内容だとは思いますが、必ず入会の意思を確認した上でPTA活動に参加してもらうようにすることを決めたと伺っております。

その入会届を出してもらうというのが今回初めての状況なのかというと、そうではなくて、既に入会届を実施している学校というのもございます。昨年の12月に私どものほうで調査しましたところ、小学校で12校、それから中学校で8校ということで、小学校で言えば全体の約4分の1、中学校だと3分の1です。その中で入会率が、平均でいいますと、小学校が98.7%で、中学校が平均で98.8%。最高値が、小学校の場合は100%の学校が6校、最低値が81%の学校がございました。中学校では、最高値が100%で2校ございました。最低値は82.4%でございました。

80%の学校は大体2割ないというところで、その人数も少なくなりました。それから、当然会費収入も減るというところで、活動がうまく回らないのではないかと心配もしていたのですが、実際に聞いてみたところでは、80%台の学校ではPTA活動が滞るとか停滞しているということではなくて、この機会を捉えて、PTAのスリム化に取り組んで、返ってうまく回るようになったというお話を伺っております。

先ほど大畑委員から、教育委員会として、人数が減った場合の支援などを考えてほしいのだということがございましたけれども、PTAに限らず、今やはり地域の青少年活動、育成活動に対する支援の担い手がどこも減少している事実がございます。それに対して、地域教育課として、教育委員会として、どのような支援をしていくかという、そこはもう検討していかないと受け止めて、実際にこれから、来年度から検討を進めていくとさせていただきます。

具体的な話で言いますと、例えば小学校PTA連合会への支援というところでは、今回こうしたことを契機に、小P連と協力して、PTA活動を紹介するPRチラシを作成し

まして、保護者説明会に、各小学校でPTAの勧誘のチラシを撒いているそうなのですが、それと併せて配布してもらえるように今準備を進めているところです。また、ほかの媒体を使って、各小学校のPTAの活動紹介とか、そういったものの情報発信も工夫を重ねていこうかと、今考えております。

あとは、これは私たちがどこまでできるかというところはあるのですが、組織の風通しというのですか、例えば今回で言えばPTAのOBの方と接点、つなげられる機会を設けるといっても考えております。

それから、小P連会長から今日メールが来まして、その中で今回、このPTA連合会の方針の文章がきっかけとなり、入会届について質問や意見が寄せられたということで、改めて前回送った方々に説明の文章を送るという連絡が入りました。大畑委員にも、入会届に関するご連絡が行くかと思っておりますので、お待ちいただければと考えてございます。

○大畑委員 自分が一番気になっているのは、どの学校でもあり得ると思うのだけど、100%ではない事実があると思うのですね。入っている人と入っていない人が同じ学校の中で同じ行事をやるときに、極端な話、PTAの役員さんは運動会で警備をやっている、会に入っていない人は堂々と見ていられる、という不公平感とかそういったものが表面化しなければいいのですけど。それが表面化してくると学校の中でも扱いが難しくなってくるのかなと感じます。

地域においては、PTAを窓口として、いろいろなお手伝いをお願いしたいというときに、いつもそこには決まった人たちしか来られなくて、子どもは出るけれども親は行かないよという典型になっていってしまうのも寂しい、ということがあるのです。

PTA活動を何のためにやっているのかという原点をしっかりと踏まえて、お金集めのためにPTAをやるのだったら、やらなくてもいいと思うのです。ただ、子どもたちのために何ができるか、というのを考えながら動くのがPTAの活動だと思うのですね。その部分をうまくやっていかないと、お金を納めているから云々、お金を納めて、なおかつ労力まで提供して地域のためにとかと、そういう入ってもらっている人にだけ負担がかかっているというのは現在あるのですけど。町会も同じようなことなのですが。

地域に住む人みんな均等に同じ情報を流してやっているのだけど、会費をもらっているのは地域の半分ぐらいしかいない。そういう中で町会は運営しているのですが、学校もそういう形で運営できるのかな。目の前に自分の子どもがいて、片方は会員さんの子、片方は会員ではない人の子、同じような扱いで同じようにやってもらえるのでしょうか。そういったことに差別が出なければいいのですけど。

PTAというものに対する考え方、会員としての考え方がしっかり色づけられていくことが大事だと思います。当然、今は共稼ぎ時代で、なかなか思ったようにPTAの

活動に協力できないから、だから入らないよという親御さんもいるとは思いますが、ただ、会の趣旨は理解してもらって、手伝えなくても入りますよという方もあって、もいいのかなと思うのですよね。だから、そういうところが分かるような資料を作るとか、会を進めてもらえればいかがかと思いますが、現状は少し違うのかなと。

今の状況でいくと、コロナのために2年間、3年間活動を何もしていない状態で来てしまったのですよ。なくてもいいのではないかと、皆さん思ってしまうと思うのですね。その部分で、違う意味でPTAというのをもう一回掘り返して、ちゃんとした意味のPTAの活動ができるような、そういう指導をやらしてもらわないと、そのまま、いいわ、いいわでいってしまうと先細りのイメージがするのです。

過去には、まだみんながいろいろな行事をやる人のにぎやかにやっていたので、入っていない人も、何気なく入った空気でも、特別大きな問題にはならないで来てしまったのですが、今みたいに活動しなくても過ごせる時代には、だったら入らなくていいよ、という選択肢をとられてしまうと、本当に先細りになってしまう。今のタイミングでこれを出すのは、よくなかったのではないかなという気がしたのです。

任意団体であるということは十分に承知していますので、入る、入らないもそれは自由なのですが、ただ地域としては、なくなったときに非常に大きな代償があるなという感じがしますので、ぜひとも、育成していくという意味では教育委員会の指導でやってもらうか、PTAの会議の中で話してもらうか、どういうテーマがいいのか含めてやってもらいたいなと思いますね。

○地域教育課長 今のご意見を頂戴いたしました。どういうやり方がいいのか検討させていただきますけれども、そういった支援については、ぜひ進めていきたいなと思っております。

あと、すみません、1つ、私のほうで言い忘れてしまいました、申し訳ございません。意思確認をする前に、PTAの活動の趣旨をしっかりと説明した上で意思確認をするというお話でございました。申し添えます。

○大畑委員 自分も説明はやったことがあります。PTA会長をやったときに皆さんの前で話をしたことはあるのですが、その当時、あまり細かく説明しないで、通り過ぎてきてしまったものですから、結構にぎやかにみんなでいろいろな活動をやっていた時代だったもので、あまり問題にもならなかったのです。

その当時、自分の周りでは子ども会なんかも非常に活発で、学校のPTAはお母さんたちがやっていて、裏のPTAは子ども会がやっているよ、と。運動会なんかも、子ども会のメンバーがみんなでバーツと来てやってくれて、本当にすごかったですよ。先生方が手を出さなくても全部準備してやっちゃってしまっていて。そんな感じぐらいまでやれて

いたのですが、どんどん状況が変わってきて、子ども会も少なくなってくる。PTAで役員やる人も、それをやるだけで目いっぱい感じ。そういうのが今の時代なのでしょうけど、その中で説明してPTAの活動の理解、また現代風に合わせて分かりやすい文章で。昔からの文章を使ってもしょうがないと思うので、その辺を考えてもらえればと思います。

○地域教育課長 私どもが作っている案内チラシも、そういう負担が減っているという現状をお伝えできる、そういったものにして作っておりますので。スリム化とかですね。あとは、逆にお互い助け合える、そういう組織なのだということが分かるような、そういったものにしていきたいと考えております。

○大島議長 大畑委員、いかがでしょうか。

○大畑委員 ありがとうございます。取りあえず結果を見ていくしかないのです。

○大島議長 ほかの委員さんからは、いかがですか。

○鈴木委員 うち子どもがいないのでPTAも全く分からないのですが、先生と親御さんというのは分かるのですが、例えば学校の周辺とか、そういう人たちがヘルプだとか、活動に参加できるのでしょうか。

○地域教育課長 ボランティアの組織である「学校地域応援団」という、学校ごとにお手伝いをする団体があります。例えば学校の朝の見守りや、最近はやっているというのはおかしいのですが、花の栽培とかですね。そういったものをお手伝いいただいたりとしています。

○鈴木委員 それは学校に行って言うのですか。

○地域教育課長 もしよろしければ、今でも私のほうで受け止めまして。

○鈴木委員 うちのすぐ近くに小学校があって、いつも鼓笛隊の音とか運動会の声を聞いていて、運動会なんかのお手伝いをしたいなと思って、中に入るのも関係者でないと入れないし、端のほうから、外から見たりしているのですが。地域の人たちで手伝えることがあるのかなと実は思っていたのですが、できなくはないということですか。

○地域教育課長 ありがとうございます。地域教育課のほうに言っていただければ対応させていただきますので、ぜひよろしく願いいたします。

○鈴木委員 分かりました、ありがとうございます。

○風澤委員 今、学校地域応援団の話もありました。今の学校地域応援団の発足から見ると、やはり元はPTAだったOB・OGの皆さんだったり、あと町会のほうで関わった方との絡みの中で広がって、学校を応援していただいているということで、元はそこからだなということをととても実感しています。

ですので、今の学校応援団で学校を支えていただいている地域の方々も、本当に少し前までは現役の保護者だったりもするわけで、長い目を見たときに、「学校とともに」とか、「子どもたちのために」ですとか、「地域の皆さんと一緒に」というような意識が寂しくなってしまうと、今支えられている学校地域応援団すら、もしかしたら、また形が変わってくるのかなと、私もそこはすごく危機感を感じています。

この会議で私も担当させていただいた地域教育課の中のわくチャレ一つとっても、やはりPTAのOBだった方、それから地域の町会だった方、そこで支えられているのです、現状は。ですから、現役のPTA、現役の保護者の方が、やはりいろいろな方とつながろうとか、共に協働してやっていこうと、その気持ちを高めていかないと、本当に先細りというお言葉がありましたけれども、本当に心配というか、何か考えなければと学校の校長としては、今、小学校ですけれども、本当に思っているところです。

「つながる」ということがどういうことなのかというのが、また、このコロナ禍であまり感じないまま来てしまっているのも、必要を感じていないのかもしれませんが。本当はどんな姿をみんな望んでいるのだろうというところが、まさに原点のところかと思うのですけれども、そこをすごく大事に、丁寧に考えていきたいなと思っています。

○竹高委員 今の先生のお話を踏まえたところで、私は学校地域応援団のコーディネーターをやっています、わくチャレのリーダーもやっています、20年近く、1週間の半分は学校に行くような生活を送っているのですけど。その中で本当に、確かに後人を育てるとか、誰かに手渡す、つなげるというのが難しいな、というのは本当に思っています。

PTA会長もやって、何人もその後の歴代のPTA会長から相談を受けたりして、PTA活動にも若干関わりながら今も生活しているのですけど。やはりこのコロナ禍の中で人との関わりがすごく少なくなってきたので、本当に大畑委員が言うように、心配なところもあるなというのはもちろんなのですね。

ただ、マスコミで騒がれてしまったので、PTAが任意団体だということは誰もが知っていることにもなっていて、そうやってきたときに、やはりここで一度きちんと確認を取ろうという動きがあって、今の流れだと思います。

今のPTA会長にもお話を聞いたところ、これは「推奨」なので、全ての学校がやるということではないと聞いたのです。ただ、やっている学校においては、逆に、きちんと確認したことなので、保護者の方が今までよりモチベーションが上がってきているというお話を聞きます。自分たちがきちんとそこに存在して参加するから、じゃあ何ができるだろうという前向きな意見とかも出ているというお話も聞いています。

きちんとすることはすることで、やはり任意団体で許可をきちんと得ていなかったの

はいけないことだと思うので、それはやはり確認を取った上で、その地域の中で、その小学校・中学校で、地域の間人として卒業した後もどういふふうに関わっていくかは、それが楽しいことなのだというのをやはりつなげていかないと、後で活動に参加する人が地区委員会も含めて少なくなっていくのではないかなと思います。

地区委員会というのは、参加すると大変というイメージがあるので、やはりそこをスリム化して、楽しい地域活動を、生涯を送れるような、そういう形に持っていけることがベストではないのかなと感じてはいます。

ただ、自分も活動していて、そろそろ誰かに手渡したいなと思っても手渡せないのが現状で、そこら辺のところは何かいいイベントなり、瞬発力なり、アイデアがあると、そこがプラスに転じていくかなと感じて生活しています。

○大畑委員 皆さんの意見、私も本当に打たれるものがあるのですね。そういう形でいいと思うのです。このコロナ禍を過ぎて、新しい組織、いろいろな部分で新しく立ち上げるようなイメージがあるのですね。ですから、ここできっちりと、PTAだけではないです、いろいろな会が、新しい時代の新しい会を、新しい組織の持ち方を検討すべき時代のときが今なのかなと感じていますので、その起爆としてPTAのほうに、そういう大きな波を、うねりを作ってもらえれば、地域の中でもできていくかなと思います。

要は、地域の活動がどうやって動いているかという、みんな暗中模索の状態です。今過去のことを引きずりながら起こしてやっているのですね。それをやっていると、多分動きがないと思うのですね。今の苦しい時代に、どういふふうに関わっていくのか、隣近所と仲よくなっていくのか、そういったものを含めて、教育委員会でできることであれば、PTAの組織を強化するための教育、勉強会、そういったものを積極的にやってもらうということで、いろいろな地域の活性化につながっていくような気がするのです。

それこそまさに地域教育課からの地域教育力、育成のための起爆として取り組んでいただければなと思っています。よろしくお願いします。

○地域教育課長 ありがとうございます。

○大島議長 地域教育課、力強く、ということだと思います。

○地域教育課長 ぜひ人をつけていただけるように。

○大畑委員 本当少ないと思う。あと2人は最低でも。地域教育に関わる場所は本当に行事を処理する人数しかいないのですよ。だから、そういう方向での勉強会を開催する隙間がないですよ。

○地域教育課長 そういうところもございます。

○大島議長 まさに、そういう何が求められているのだ、どういう仕事こそ必要なのだというのを明らかにして発信していくのがこの会議でもあると思うのですよね。せつか

く教育委員会と、もう1つ、社会教育委員の会議という形で、学校を中心に考えるのと、また、もう1つ、学校を支えるだけではなく、大人自身の学びもあるわけですが、そういったことの大切さということをきちんと発信していく会議。

今期は3月で終わってしまうのですが、とても大事な、いろいろなことを発信していける場なのだと、今日のお話でもすごく感じたところですので、ぜひ次の期の委員の皆さんにバトンを渡せるような形になれたらと思います。

今の意見交換というのは、決して答えを今すぐここで出せるような話ではないと思いますが、テーマで議論していく葛飾のスタイルだけでなく、今話しているようなことも、この会議として時に取り上げていくようなことを、事務局もうまくこれから探していっていただけたらと思います。

今日の意見交換はそんなところでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、本日の議事は4つ全て終了いたしました。そのほか、何か委員の皆様からございますでしょうか。事務局からは。

○事務局 1つ宣伝をさせていただきます。皆様の机の上に置かせていただきましたチラシの中で、「団体・サークル支援講座『コロナ禍でもつながるために』」というものがあるかと思います。風澤先生からもお話がありましたように、こうした状況の中で「つながる」ということを意識して、そして、大畑委員や竹高委員からお話があった地域の課題を発見し、解決する力や、自分たちの団体が抱えている課題は何かということ、ここでもう一度少し違った視点から学び直してみようという講座を、生涯学習課で企画し、今参加者を募集しておりますので、社会教育委員の皆様もぜひ普段とは少し離れたところで学習会に参加していただければと思います。

○竹高委員 併せて、「絵本づくりは心の旅」という講座を、私が代表を務めております学校図書館ボランティア連絡会で実施します。初めて1冊絵本を作った若い方が、その経緯も含めてお話ししてくれる予定ですので、もしご興味があれば周りの方にも宣伝していただけると嬉しいです。来週が締切りになっております。よろしく申し上げます。

○大島議長 ありがとうございます。では皆様、よろしいでしょうか。

以上で今日の会議を終了としたいと思います。本日も、どうもありがとうございました。

— 閉会 —